いわき市財政運営方針　～令和８年度収支見通し推計ローリング～

令和８年９月　財政部財政課

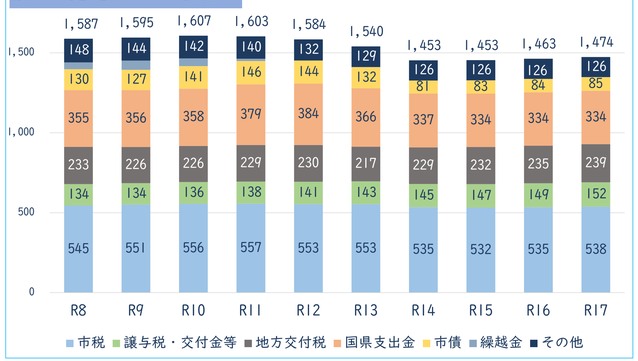
本方針では決算額を基礎数値として今後10年間の収支推計を行うことから、毎年度、決算を踏まえて財政収支推計のローリングを行い、その結果を公表することとしています。
推計のローリングにあたり、前回推計から変更した前提条件は、次のとおりです。

■基礎数値となる決算実績を更新（令和６年度普通会計決算⇒令和７年度普通会計決算）
■経済指標として用いている「中長期の経済財政に関する試算（内閣府）」を更新（令和７年８月公表版⇒令和８年７月公表版）

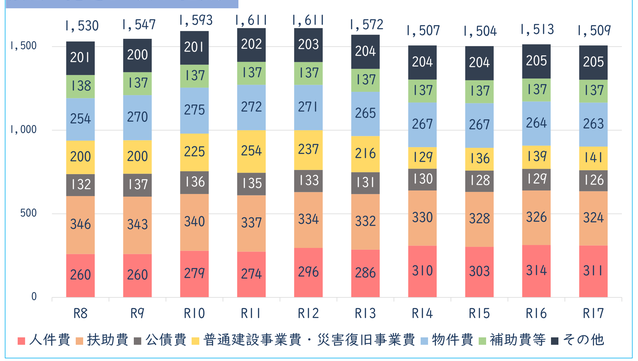
【推計ローリング結果】

■歳入・歳出ともに前回推計を上回る結果となりましたが、収支が赤字となる年度及び財政調整基金が枯渇する年度に変更はありませんでした。
■名目GDP成長率等の経済指標の上昇等に伴い、歳入面では市税及び普通交付税が増加するとともに、歳出面でも人件費や物件費等が増加しました。【参考】令和９年度名目GDP成長率（1.0%→3.9%）
■歳出面では、公共施設のLED化に係る事業費等を新たに見込んだことに加え、大規模公共事業（常磐及び四倉市街地再生整備等）の事業費が明らかになってきたことに伴い、普通建設事業費が増加するとともに、歳入面でもその財源として見込まれる国県支出金及び市債が増加しました。

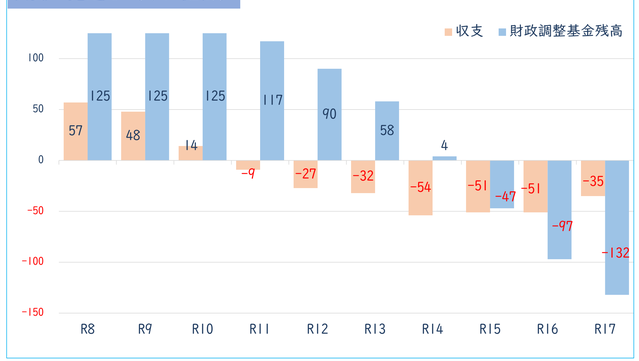
歳入の見通し（今回推計）



歳出の見通し（今回推計）



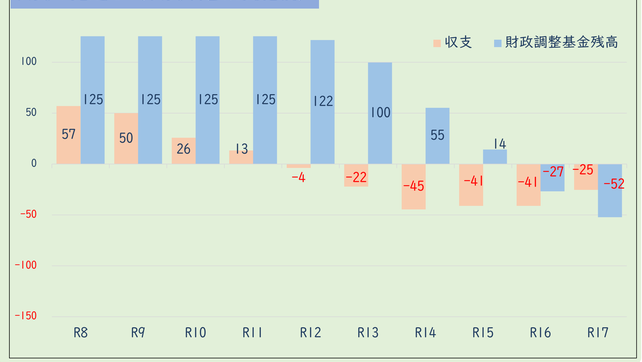
収支の見通し（今回推計）



【収支改善策例】

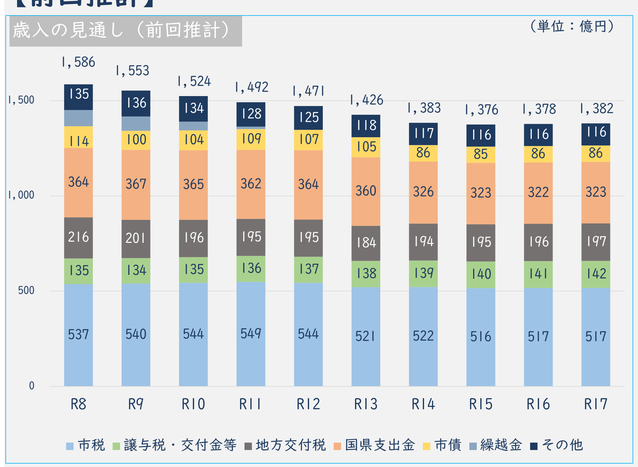
（歳入）年7,843万円の歳入増
基金運用利子収入の増加に向けた取組み
⇒基金の一部債券運用から、全額債券運用へ見直し
（歳出）年８億円の歳出減
収支状況を踏まえたシーリングの実施
⇒令和10年度の経常的な物件費（消耗品等）に対し、５%のマイナスシーリング

収支の見通し（収支改善策実施後）

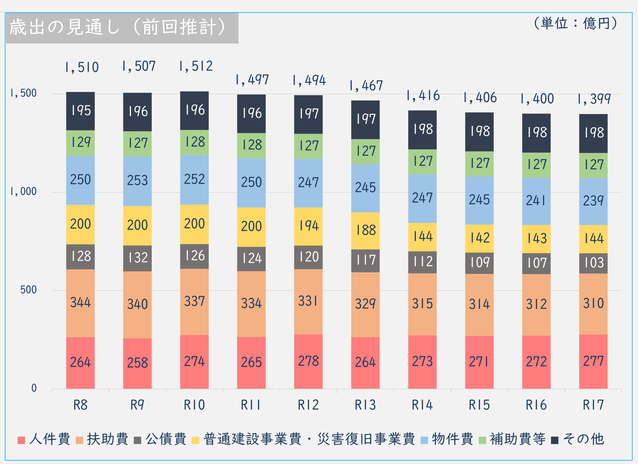


【前回推計】

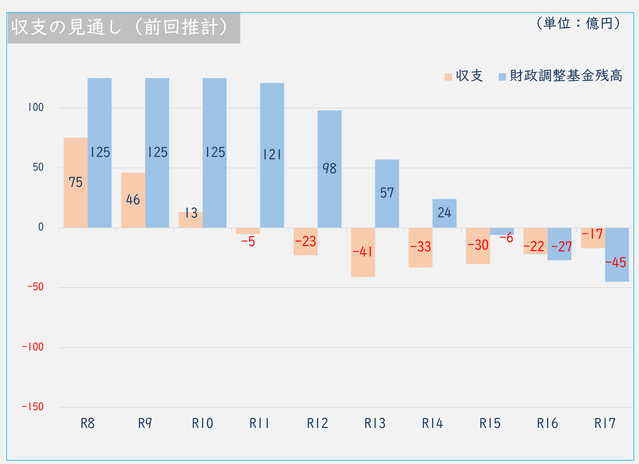
歳入の見通し（前回推計）



歳出の見通し（前回推計）



収支の見通し（前回推計）



【数値目標の達成状況】

(1)　財政調整基金

年度末決算において、概ね40～120億円程度の残高
(標準財政規模の概ね５～15%程度相当)の確保を目指す。

⇒概ね達成
■ 令和７年度末財政調整基金残高：125億円
■ 令和７年度標準財政規模の5～15%：40億～122億円程度

(2)　健全化法に定める２指標

実質公債費比率及び将来負担比率が、早期健全化基準の1/2以内となる財政運営を行う。
・実質公債費比率：国25.0%→市12.5%
・将来負担比率：国350.0%→市175.0%

⇒達成
■ 令和７年度実質公債費比率：6.1%
■ 令和７年度将来負担比率：充当可能財源等が将来負担額を上回っているため、将来負担比率は算出されない